

史跡 ニツ森貝塚

青森県小川原湖から数キロ西にあるニツ森貝塚には、紀元前 3,500 年～紀元前 2,000 年にかけて、複数の集落が存在していました。この遺跡の随所で、150 近くの竪穴建物跡と、複数の貝塚があった証拠が発見されました。この遺跡では復元竪穴建物が 2 棟建設されており、シカの角から作られた装飾具などの出土品は、近くのニツ森貝塚館 [\[リンク\]](#) に展示されています。

集落の規模と配置

駐車場付近の展望台からは貝塚を見渡すことができ、地図には集落の配置が図解で説明されています。ニツ森貝塚の集落は大規模なもので、集落には、墓地、集めた食料を貯蔵する穴、貝塚とともに、土器や石器などの道具を廃棄する場所がありました。

環境が変化した証拠

紀元前 3,900 年頃、ニツ森貝塚は、大きな湾を見下ろす位置にあったのでしょうか。何世紀もかけて、海面が下がって海岸線が遠ざかり、湾は小川原湖（汽水）になりました。これらの環境の変化は、貝塚の中の貝殻の種類と分布から観察できます。より下の層には、カキ、ハマグリ、および海に住むその他の貝の殻が含まれています。いっぽう、より上の層には、ヤマトシジミなど、汽水に住む種の貝殻が含まれています。

生存のための活動

また、貝塚には、魚、ハクチョウ、カモ、シカ、イノシシの骨も含まれています。これが示すのは、この集落の住人が、貝類を集めるとともに、狩りをし魚を獲っていたということです。クリを保存するのに使われることが多かった貯蔵穴の存在は、住人が森で食料の採集も行っていたことを示唆しています。

関連遺跡

北日本において、その他の集落跡は、三内丸山遺跡 [\[リンク\]](#)（青森）、御所野遺跡 [\[リンク\]](#)（岩手）、および大船遺跡 [\[リンク\]](#)（北海道）で発見されています。